

南方仏教の仏・法・僧

仏



仏陀坐像



仏陀と二弟子



仏陀立像



仏陀立像

南方仏教の仏・法・僧

法



1. パーリ聖典(タイ) その1



2. パーリ聖典 (タイ) その2



3. 仏陀伝記 (ビルマ)



4、^い貝 ^た多 ^ふ羅

1、パーリ聖典 その1

タイで書写製作されたもの。写本の前後にタイ文字（タイ語）による奥書説明があり、本文は古クメール文字。内容はパーリ聖典、さらに新クメール文字（タイ語あるいはカンボジア語）による註釈・説明を加えている。

パーリ聖典の内容は戒律関係で

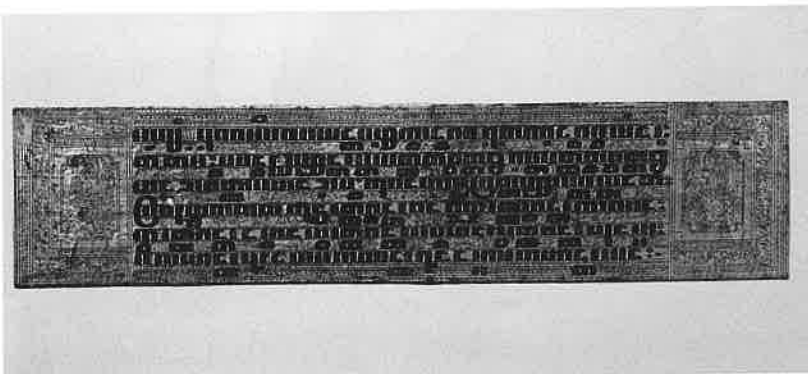
『律藏』経分別、第1波羅夷 (PTS) 新

Vin.iii. I の(1)まで；写本のP.3. 73

P.4. 74に比附) 等の選集である。

2、パーリ聖典 その2

タイで書写製作されたもの。古クメール文字、内容はパーリ聖典。さらに新クメール文字（タイ語あるいはカンボジア語）による註釈・説明を加えている。



5. パーリ聖典 (ビルマ) その3

パーリ聖典の内容は論 (アビダ

ルマ) 関係で、パーリ七論すなわち

(1)法集論 (Dhammasangani) (2)分別論

(Vibhanga) (3)異説論 (Dhātukatha)

(4)人施設論 (Puggalapapañatti)

(5)論事論 (Katharattu) (6)双対論

(Yamaka) (7)発趣論 (Mahāpāthāna)

よりの選文である。

3、仏陀伝記

ビルマで書写製作されたもの。モ

ン文字 (モン語) で書かれ、仏の伝

記を内容としたジャータカ (Jataka)

の一種である。奥書にビルマ暦二二

六八年 (西暦一九〇六年) に書写さ

れたとある。従って七十九年前のも

の。

4、貝多羅

セイロンまたタイ・カンボジア系

の写本ではなく、ビルマ系の写本で

あろう。従って、書写製作地はビル

マと考えられる。

5、パーリ聖典 その3

書写・製作地はビルマ。古ビルマ

文字 (パーリ語) で書かれウパサン

パダー (具足戒受戒式事) の中の白

四羯磨、すなわちカンマローチャー

(Kammavācā) を内容とする。書写

年代は二〇〇〇〜三〇〇〇年ほど前と思

われる。

考証 阿部慈園識

(東方学院講師)

●以上の写真は善光寺収蔵品を撮影

したものです。

撮影・五十嵐千彦



南方仏教の仏・法・僧

僧



ワット・パクナム サラー(斎堂)に向かう僧たち

風をまとつて

黄衣の僧が行く

ひたすらに

自らを律し

ひたむきに

仏陀の笑みを求めて

僧たちの瞳には

青い空が映っていた



得度式後、仏陀を礼拝する



布薩（懺悔式）



ワット・パクナム 前住職、中興の祖ロンポー（我らの父）記念堂



来日されたワット・パクナム住職（前列右端）と共に
パクナム副住職（前列左端） 黒田方丈（中央） 留学僧
梅田師（後列右端） 留学僧田中氏（後列中央）



布をまとう仏陀——チェンマイ（撮影・中村正信）



大悲の仏国

褐色の大地の上に

きらめく金色を見つけたら

そこには必ず仏陀がおわす

大いなるふところを開いて

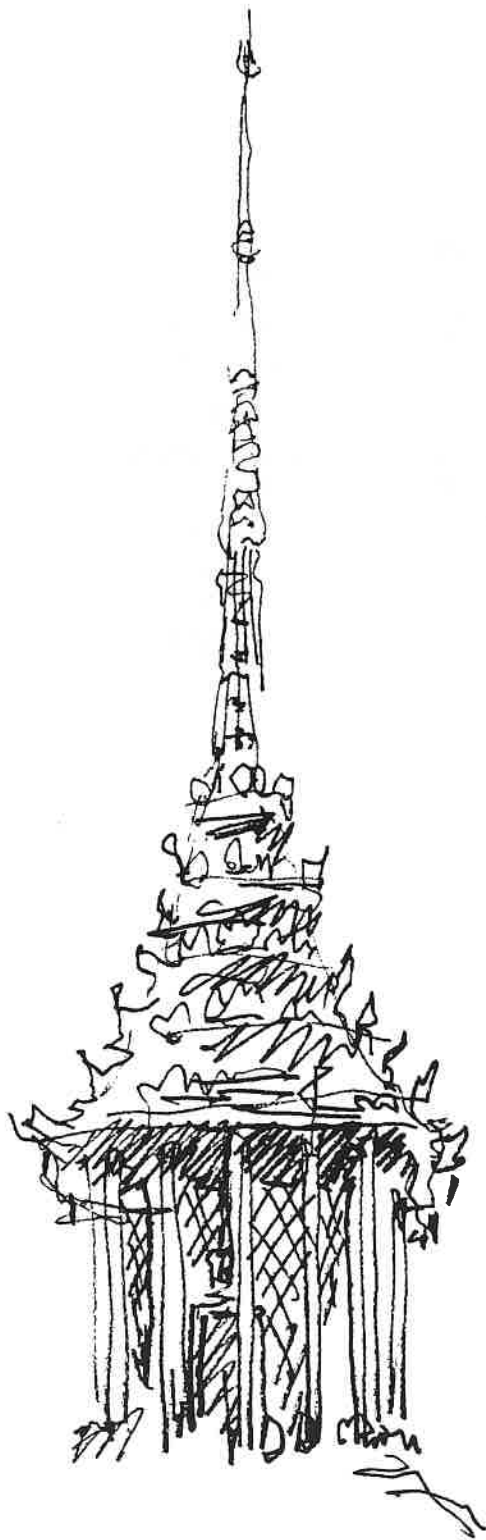
誰をも拒むことなく

祈りはほほえみに似て

さり気なく

やさし気に

ひっそりと風をふるわせていた。



ワット・エメラルドにて